

■湘南邸園文化圏の沿革

相模湾沿岸地域一帯は、明治期から別荘・保養地を形成して、首都圏で活躍する政財界人・文化人らが滞在・交流する地域として発展し、さまざまな文化を発信・蓄積してきました。それらは、緑豊かで閑静な住宅地空間や歴史的建造物の佇まい、美術、文学、音楽、スポーツなどの湘南文化として今も息づいています。

湘南地域には、明治から昭和初期にかけての邸宅が、洋館 350 棟、近代和風建築 1300 棟現存しております。



湘南地域の邸園文化圏の形成の背景
 ～ブライトン（英国）と湘南地域～

この地域に別荘地が形成された理由の一つに、明治4年の岩倉使節団によるロンドン郊外の海沿いの町ブライトン（Brighton）訪問があります。ロンドンの南約60キロにあるブライトンと、大磯など湘南の別荘地の立地条件が東京との関係において酷似しています。

ブライトンで海水浴が開始され、イギリス王室の離宮建設とともに政財界人の保養地・別荘地として発展したことが、湘南形成の一つのモデルになったと言えるでしょう。岩倉使節団参加者の多くが、湘南に別荘を建設していることからそれがうかがえます。



■邸園文化圏再生構想

しかし、近年においては、それらの文化を育んできた邸宅・庭園（邸園）や歴史的建造物が、相続時の保全の難しさや維持管理のための費用負担の大きさなどから、次々に失われています。邸園等の保全活用にむけて取組むNPO等や自治体取組みを受け止め、神奈川県は、この地域の活力と魅力を増進するために、地域の歴史・文化を育み、人々の心に残る風景をかたちづくってきた邸園等を、内外からの来訪者と地域住民による多彩な交流の場として保全活用し、新しい湘南文化を創造し発信することを目的とする、「邸園文化圏再生構想」を進めています。

■湘南邸園文化祭 開催の主旨

構想の趣旨に賛同する各地のNPO等と県及び関係市町が協働連携し、邸園等の保全活用に取り組むために、また邸園文化圏再生構想を推進するプロジェクトの一つとして「湘南邸園文化祭」を開催するものです。

<開催の目的>

- ①邸園の有効活用イベントによる邸園文化の魅力の発信と滞在型交流の推進
- ②湘南地域一帯の様々な邸園が連携して一つのイベントを実施することによる邸園文化の発信力向上
- ③邸園の活用を担う事業者やアーティスト等の発掘と連絡体制の構築
- ④イベント実施を通じた邸園活用の課題の抽出
- ⑤連絡協議会の組織化とイベントの企画調整を通じた、「邸園文化交流推進協議会」(※)への主体的参加



※邸園文化交流推進協議会

邸園等の地域資源の文化的活用による交流推進を目指し、協働・連携のあり方の協議などを行う、県・市町・NPO等による協議会



■湘南邸園文化祭の運営体制

<開催体制>

湘南邸園文化祭連絡協議会は、湘南邸園文化祭を実行するにあたり、各地のNPO等が協働して設立したもので、各邸園等での催しが湘南地域全体としての相乗効果を大きく生み出せるよう企画調整し、また、企画の実施を通じて、その効果や邸園利活用上の課題等を検証することで、今後、継続的かつ本格的な湘南邸園文化祭に発展させることを目指します。



<各主体の役割分担>

- ①各地のNPO等(主催団体)
 - ・催しの企画・運営
 - ・湘南邸園文化祭連絡協議会への参加
 - ・催しについての問い合わせや予約受付に関する対応 等
- ②14市町(共催者・協力者等)
 - ・各市町における催しの広報
 - ・邸園所有者や施設管理者と主催NPO等の間の借用交渉への協力
 - ・市町所有の邸園、歴史的建造物等の会場提供 等
- ③湘南邸園文化祭連絡協議会
 - ・活動財源の確保（企業スポンサー募集に関する活動 / 助成金申請 等）
 - ・各催しの調整
 - ・湘南邸園文化祭全体の広報
 - ・課題の検討や効果の検証 等
- ④神奈川県(共催者)
 - ・湘南邸園文化祭全体の広報（事前告知チラシ及びガイドブック作成印刷 / プレスリリース / ホームページ掲載）
 - ・県所有邸園の借用交渉への協力

■開催による効果

- ・主催団体、連絡協議会への参加自治体が年々増加し、ネットワークが広がっている。
- ・年々参加人数が増加し、より多くの方に邸園の魅力を発信している。
- ・3つの主催団体が、湘南邸園文化祭への参加を経て、NPO法人格を取得するなど、組織体制の強化のきっかけとなっている。

	会場	催し数	参加人数	主催団体	連絡協議会への参加自治体
2006	6市町	32	8,772	11	1
2007	8市町	32	11,662	14	5
2008	9市町	32	24,461	18	5

